

平成29年度 第4回「ともに考えよう まちづくりミーティング」

平成29年10月22日（日）14時00分～

金沢市ものづくり会館 2階 研修室

栗崎、川北、大浦（校下、地区）

(1) 市長あいさつ

【山野金沢市長】

皆さん、こんにちは。

ご多用のところ、また天候、足元の悪いところ、またそれぞれの地域でこの時期は文化祭、社会体育大会の準備や後始末、さらには来週、金沢マラソンで皆さん方にいろいろとお骨折りをいただいているその準備等々で大変なところ、こうやってお集まりいただきまして、心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

本日は、栗崎、川北、大浦、3校下、地区の皆様にお集まりをいただきました。特に大浦校下におきましては公民館、つい先般、竣工をされました。大変うれしい思いでいっぱいです。それぞれの地域ごとの課題もあるかと思ひますし、そういう声を聞かさせていただきながら、皆さんと一緒に解決に向けて取り組んでまいりたいと思ひています。

今日は限られた時間ではありますけれども、また自由にご発言をいただく時間もございますので、いろんなご意見もお聞かせいただければと思ひます。

本日は本当にありがとうございます。

(2) 地域代表あいさつ

【栗崎校下町会連合会 会長 西澤氏】

皆さん、こんにちは。私、栗崎校下町会連合会の西澤と申します。今日は場所が栗崎ということで、3校下・地区の代表として簡単に開会のご挨拶をさせていただきます。

本当に、先ほど市長が言われたように、皆さん何かと地域のいろんな行事等でお忙しい、また雨の中、足元の悪い中、こうしてたくさんお集まりいただきまして、ありがとうございます。

本当にまちづくりミーティングというよりも、「ともに考えよう」とあります。これは要望ではなく、これから皆さんの地域でいろんな課題があると思ひます。そういうことも

踏まえた中で、2時間にわたる時間でございますけれども、いろいろ議論していただく、お話ししていただければと思います。

それで、1、2カ月ほど前から町連の方と、3校下・地区の共通課題とは何かと話をしました。やはり、防災についての話が出てきました。地震、津波だけではなく水害、土砂崩れ等があります。大浦校下・川北地区については川がたくさんありまして、水害対策。栗崎校下については、海に近いですし津波の心配、また液状化。各校下によって違うと思います。そういうことも踏まえて、今回の場合は防災について共通課題をお話しさせていただきたいと思います。

私は栗崎校下ですけれども、栗崎校下もよく見ると、ここには石油基地があり、またガスタンクがあり、意外と火災も心配と思っています。大浦、川北については水田もたくさんあり、川がたくさんあるところで水位がすごく上がっている。河北潟をもう少し強制排水したらどうかという話も出ました。そういうことも含めまして、各町会長からまたお話が出ると思います。2時間にわたる会議でございますけれども、皆さんも後でいろんな質問等がありましたらお願いしたいと思います。

簡単でございますが、開会に当たりましてのご挨拶といたします。

今日は本当にありがとうございます。

(3) 地域課題の発表、課題に対する市の方針等の説明、討議

- ①地域の防災力向上のための地域コミュニティ活性化について（栗崎校下町会連合会）
「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、
レジュメを参考願います。

【栗崎校下町会連合会】

先ほど安原、二塚の話が出ましたが、どういう訓練の内容かを教えていただきたい。

今、避難所開設の訓練が非常に各地区で多いと思う。その辺が今後どういう訓練を行えばよいのかと思いますが、安原、二塚はやはり小学校とかどこかに皆が集まる、避難所開設の訓練だったのですか。

【中川危機管理監】

緑小学校というところが、安原地区と二塚地区の二地区から生徒が集まっているという

事情もございまして、非常に隣接した地区の中でもその小学校を中心として密接な関係があります。その訓練等につきましては、一般的な安否確認や避難所の運営訓練、そういったことを中心として行われました。

ただ、両地区とも、前々から防災訓練に関しまして非常に熱心な区域であります。今回初めてその両地区合同で行いましたが、合同で行うことによって、また新しい課題も見えてきます。そういったことを踏まえて、住民の意識付けというところもございまして、実際の何かあった時の対応をさらに向上させたい、という訓練だったと聞いています。

②水害対策について（川北地区町会連合会）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参考願います。

【大浦校下町会連合会】

今ほど言われた大宮川の大浦校下の調整池というのはどのあたりに、買収したところにつくられるのですか。

【磯部土木局長】

大宮川は今、東山内灘線から上側をⅡ期区間として整備をすることになっていまして、まずは用地買収を進めているところです。左岸側に北部共同調理場があり、それから少し上流のところ、全体の計画では12,000トンぐらいのかなり大規模な暫定調整池を考えているのですが、その10分の1ぐらいになります。1,200トンぐらいの暫定調整池を、まずは用地買収をさせていただいたところから始めていきたいと思っております。少しずつご協力いただければ用地の対象が増えていきますので、暫定調整池のボリュームも上がっていきます。

暫定調整池の効果としましては、大雨が降った時の時間差、一気にどっと下流側に流れるのではなくて時間調整を図ることができますので、浸水被害の軽減につながると考えております。

【川北地区町会連合会】

前項の栗崎のときにもおっしゃっていましたが、いわゆる地域に対してのコミュニティ

防災士の増員、これについて提言させていただきたいのですが、我が地区では8町会、ここに1人ずつの防災士をとりあえず置こうということで、ただいま現在4名おります。そのほかに消防出身者から警察のOB等でできそうな方はいらっしゃいますが、現実問題として、知識を持っているのかというと、やはり防災士頼りになっています。

去年、おととしということで申し込みをかけたのですが、お宅の地区はある程度もう人数がいるから後回しだというような言い方をされまして、受けられませんでした。要は、増やせなかったのです。目標に達するためにお願いしているのに、意欲のあるところを後回しにされて、今年やっと、こちらにおられる方が受けられることになりました。そういうことのないように、もちろん予算、それから、まだいないところに防災士を置きたいという思いが金沢市にはあるかと思いますが、意欲があって手を挙げているところを外すということのないようにお願いしたい。うちのところは川沿いに沿って非常に長い地域です。目標として、各町会1名ほどはしないと、まず町会単位の防災訓練から始めたいと思ってもカバーし切れない。

それと、もう1点。我々の地区で、指定避難場所というのが「松寺公民館（鉄骨、2階建）」と書いてありますけど、非常に小さなものです。間違いなく全世帯が入れるような場所ではありません。川向こうに浅野川中学校があります。でも、浅野川中学校は我々の避難場所ではない。諸江町小学校もありますが、それも川向こうです。我々の避難場所ではない。我々の地区というのは、本当に農業推進地区で高い建物も新しく建てられないような場所です。寂しいかな、コンビニ一つありません。そんなところで、逃げ惑う年寄りばかりが水に溺れてしまうということになりかねない場所ですので、ソフト面、ハード面とおっしゃいますけど、避難場所をもう少し考えると、総合的に考えていただけないかなと思います。

【中川危機管理監】

2つお話ございました。まず、1つ目のコミュニティ防災士、意欲のある方がせっかく手を挙げたのに断られてしまったということでございます。

我々とすれば本当に一人でも多くの方、特に、先ほど言いましたけれども、女性であるとか若い方、そういった方にコミュニティ防災士にどんどんなっただけなりたいと思っております。そうした中で、今後はそのようなことのないように、意欲のある方についてはどんどんなっただけなように我々としても積極的に支援してまいりたい。

あと、指定避難所のお話でございます。川北地区は松寺公民館だけということでございます。そのほか、避難場所とすればいろんな、中央公園やテニスコートもあるということですが、なかなかその地区の特性によっては、その校下、地区の皆さんが避難できるだけのスペースが十分に確保できていないというのが現状でございます。

そうした中で、我々とすれば、先ほど安原と二塚の話もございましたが、近隣もしくは隣接する校下、地区への避難ということも、時によっては必要になると思っておりますので、その辺については今年度、地区別の防災計画の策定マニュアルをつくっていますので、ぜひとも防災士の皆さんや自主防災組織の皆さんを中心として、再度その地区の防災に関する課題というものも整理いただきながら、それに見合うような体制や避難の通路、避難経路もご検討いただくということでございます。全ての問題が解決されているかということではないということですので、今後、我々としてもできるだけ地域の皆さん、地区での防災計画を策定していく中で再度、自然的特性、社会的な特性を踏まえた、その地区にふさわしい防災計画の策定について一緒になって取り組んでいきたい。

【山野金沢市長】

1点目は、今危機管理監が申し上げたとおり、しっかり対応していきます。

2点目ですけれども、1つの校下、1つの地区でというのは、長いスパンで考えれば計画的にやっていかななくてはならないと思っておりますが、少なくとも向こう数年というレベルでは、なかなか2点目についてはすぐ答えを出せません。だからほっといていいというテーマではないと思っておりますので、少しエリアの中で対応できるという施策も地域の皆さんと相談させていただきながら具体的な施策を練っていければと思っております。確かに浅野川中学校があるじゃないかと言われても、水が増えている時に川を渡るというのは全然現実的ではありませんから、できる限り現実的な対応策を地域の皆さんの声をお聞きをしながら取り組んでいきたい。

【栗崎校下町会連合会】

コミュニティ防災士というのが、講座が開かれて資格試験があると。栗崎の防災訓練の中でうちだけが、1丁目だけが防災士がいない。一番高齢な町会ですから、少しでも若い人でそういう方がおいでたら少し協力していただこうと思って一生懸命探していたら、もう締め切りが済んでいたのですが、この養成講座というのは毎年されるのですか。あるい

は数年に1回とか。教えていただきたい。

【中川危機管理監】

防災士の養成講座につきましては、ずっと毎年やっております。県も防災士をたくさん増やしたい、我々金沢市としても地域の安全・安心のためには防災士の方は非常に力になる。毎年やっていますので、もし今年は締め切りが過ぎてしまったとしても、来年もございますので、ぜひともまた地区からご推薦いただければと思います。

【大浦校下町会連合会】

大浦校下の浸水については、私は河北潟の水位上昇というのが非常に影響していると思う。干拓によって面積が3分の1まで減っていますので、なかなか水がはけないため浸水があると思います。そういう点で、県あるいはその関係者との話はされているかどうかお尋ねしたい。

【磯部土木局長】

確かに浸水被害の一因として河北潟の水位上昇、高潮の影響は考えられます。排水機について、河北潟には国営のものや県営のものがあったり、河川の出入り口は、市で設置したのものもあります。その辺は連携をとって効果的な対応を検討してまいりたい。

今年そういう課題を聞いたから来年からすぐ改善できるというものでもございませんが、一方ですぐできる方法といいますと、暫定的な排水ポンプを、浸水がよく起きるような箇所の近傍に設置して何台か稼働させるとか、そういったことはできるだけ早目に対応をしていきたい。県や国と全体的に効果的な対応になるよう、今後とも努めてまいりたい。

③校下の文教ゾーンにおける歩行者の安全確保について（大浦校下町会連合会）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参考願います。

【大浦校下町会連合会】

大浦小学校の校門から木越方面へ歩きますと、家も何もなくて吹きさらしになるところがある。そこへ子供と一緒に歩きますと、風強いと帽子が飛んでいたり、傘が大体壊れ

たりする。傘は壊れたりしても、ちゃんと持っているらしいのですよ。帽子が飛んでいった子供を見ると、ぱっと車道へ飛び出る。帽子が飛んでいくから。子供が顎ひもをつけていれば子供の責任というものの、やはり小学1、2年生もいますから大変見ている危険です。先ほど土木局長さんが交通規制ということをおっしゃいましたが、いい考えだなと思って聞いていました。

それからもう一つは、河川の改修をしているでしょう。金腐川とか木越団地の間際の川幅も大きくなった。そうしたらその分、水が満々となった。橋が高くて、この前もどこかの子供が落ちた。私から見ても、あんなところへ帽子が飛んで落ちたら子供は簡単に行く。そしてこの辺の川は縁が悪いため、1回落ちたら上がれない。横がしっかりしていると上がるができるが、落ちたら上がれない。

それで、皆さん川の改修でよくなったと言うけど、逆に副作用として橋が高くなって水が満々としている。たとえば素人の意見として、浮き輪の一つも橋の欄干にかけていってくれたら、大人が見ている、子供が落ちたら助けに行けるのではないかと思っている。台風の際の帽子の飛び方、本当に怖い。私、一緒に歩いて思いました。

それからもう一つ。さっきの防災訓練のことで、この前、木越団地で防災訓練をした。アルファ米をもらいに行くと100食しかもらえない。「私のところは三、四百人いるので、もう少しもらえないか」と言ったら、「各町会のバランスがあるからこれ以上出せません」とおっしゃいました。それで、自分らのところで1万円ほど払い、もう50食をインターネットで注文しましたが、その町会のバランス、木越団地は100軒ほどあるということがわかっているのだから、100軒あったらせめて200食ほど出すとか。

木越団地の老人会と婦人会はすごい。おにぎりにして300食に変えていました。

【磯部土木局長】

ただいまの点について、冒頭の部分で子供さんが田んぼの中の吹きさらしのところを歩いていて帽子が飛ばされたりして車道に飛び出たり、河川改修後、恐らく河川改修、馬渡川とかあの辺、多自然型でゆったりとした勾配で、矢板できちっと立ったような河川ではないので防護柵がしてないところもあるかと思えます。

全てのエリアを一律にこんな対応というのはなかなか難しいかと思いますが、たとえばこんな場所が特に危ない、そういうところがありましたら、そういうところの規制、子供がよく通るから徐行の案内など、できる方法を探してみたいと思いますので、特に注意が

必要な場所とかを町会連合会長さん等を通して教えていただければ、個別にできることがないか探っていきたい。一律に全部、たとえば防護柵でシャットアウトはできないとは思いますが、何か対応できることがあれば、警察等とも必要に応じて相談してまいりたい。

【野口教育長】

強風時の子供の帽子ということでお話がございました。

基本的には、金沢市内の子供たちにつきましては、強風時には傘を差さないでなるべく雨がっぱを着用しながら登下校をしようという話をしていますが、そういうことを言いながらも、やはり傘を差して下校するお子さんがいるということは間違いない事実だと思っています。

毎月1回、校長会議がございますので、今回のこのお話につきましては校長会を通しながら各学校に指導をさせていただこうと思っています。

【中川危機管理監】

防災訓練に伴いまして、アルファ米のお話ございました。

我々としても金沢市内で訓練されているところにお配りをしなければいけない中で、できるだけご希望に沿うように努力はいたしますが、どうしても数に限りがございますことをご理解いただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

【栗崎校下町会連合会】

通学路を決める時に、各町会の責任者を招いて通学路を作っているかどうかというのが1点。

もう1点は、ご存じのように、栗崎は坂のまちです。私はたまたま四つ角の角におりますので、子供が通学する時朝ずっと見ているが、1カ所だけ、子供は、普通は考えられないところを通して、そのドブへ落ちる。我々のところは大体昭和40年の前半に作られていて、深さが30~40cmございます。「あれ？いたのにおかしいな」と思ったら、その中に入っている。そういうこともあり、ここは危険だなという所を町会長はずっと見ているので、町会長等を入れて通学路の危険箇所を見ながら、どういう改善策があるのか、少しご検討を願えればと思っております。

【野口教育長】

まず、通学路につきましては、基本的にはその学校が設置された時に、当時の校長や地域の方で話をし、情報をいただきながら作っていると理解しています。ただ、学校ができてから10年、20年、100年近くになる中で当然周りの様子がどんどん変わっていますので、学校はそうした状況が変わってきた地域の方々の情報を頂戴しながら通学路を変更することは随時行っております。

私も校長の時に通学路の途中にマーケットができて、通学路を大きく変えたこともありますので、もしご心配なことがありましたら遠慮なく校長へ、町会長さんや連長さんを通じてながらご連絡いただければと思いますし、場合によっては直接でも結構だと思いますが、気になることがあったら情報として頂戴いただければ、改善すべきものは改善させていただこうと思っております。

【大浦校下町会連合会】

通学路の電灯の件について、東蚊爪に、昔は電車で通っていたのですが、今は自転車で行けるようになって浅野川中学校まで自転車で行く。松寺から北寺までは田んぼが続いて、ポールを立てて照明灯、多分街灯でつくったと思うが、北寺の団地から蚊爪の間、1kmもないと思うが真っ暗です。車で通行する時でもライトをアップにしないと見えないくらい真っ暗。市の水門までは電柱が何本か立っているのですが、2年ほど前から、町会約200軒あったら4つ付くということで、3つぐらいずつ付けているが、北寺の間がポールも何もないので、こういう場合は浅野川中学校へ言えばよいのか。何か早く付けてあげたいと思う。

【野口教育長】

浅野川中学校へ一度ご連絡をいただければと思うが、基本的に危機管理監から、街路灯について何かありますか。

【中川危機管理監】

防犯灯のお話かと思えます。今年度、ESCO事業ということで、金沢市内の防犯灯を全てLED化することに取り組んでいるところですが、今お話ありました通学路等や、そのほか住民の皆さんがよく使われる道路等についても暗いという場所があると思

います。金沢市ではそういった所に防犯灯を設置する際の支援制度がございますので、そういった中で、その世帯数に応じて設置できる灯数も限られていますが、その優先順位というものも地域で考えていただきながら、申請いただければと思っております。

【大浦校下町会連合会】

通学路の問題で、大浦小学校から北部共同調理場の道があります。調理場へ行くまでの間、歩道が切れてから大浦町会の道路を通るが、そのところが非常に狭い。車が交差する余裕がない。私も通りましたら、向こうから車が来ると、よけてよそ様の民家の土地へ車を片足入れないとすれ違いができないところですので、毎朝、子供たちが通学してくる時に、私も防犯活動で広報車を走らせると、私の車が子供を避けながら通るのがやっとです。子供たちが二、三人ずつグループになって通っていくと非常に危険です。道路を拡幅する等は、両側に民家もあり、消防の資材置き場もあるため拡幅は難しいのかなと思う。

先ほどお話で、5年に一度ぐらいは通学路その他を見直しするというお話もございましたので、育友会や町会連合会等と一緒に、学校へ相談すれば、たとえば次の農道になると農協さんとも相談しなければならないのかもしれないですが、通学路を変更することは可能なですね。

【野口教育長】

我々が今5年に一度やっている点検というのは、現在の通学路に対して何らかの措置をすれば子供が安全に通学できるのではないかという対策についての見学をさせていただいて、協議しながらそういう対策をしていくということでありまして、通学路を変更することになりますと、それは学校と地域と保護者も入っての話し合いが中心になると思いますので、まず一度、学校にお話をいただければと思っております。

ただ、恐らくそのルートをずっと通学路として使っているということは、そこしか通学路がないのかなということを感じているのですけれども、そうになりましたら、安全に子供が歩行できるような、生徒指導の立場の部分も入ってまいりますので、そこは校長にもお伝えしておきますので、また忌憚なく地域の声を届けていただければと思います。

【大浦校下町会連合会】

そういうことになりましたら、連合町会長さんや育友会ともご相談しながら学校と通学

路の見直しをさせていただく方向で検討したいと思います。

それから、大浦小学校から新しくできました大浦公民館方面へ曲がりますと危ないところがございます。あそこはずっとガードパイプがあり、高齢者、子供たちが通るようになりますので、一層、交通とか防犯面でも気をつけてまいりたいと思います。

あと、水害の面でもう1件だけお話を伺います。東日本大震災の時、津波がございまして、小学校から児童を下校させたことが良かったのか悪かったのか、それで子供が亡くなったことがどうかということも話題になった。松寺の保育園、浅野川中学校、大浦小学校や大浦公民館は避難場所になっているが、浅野川が氾濫した場合は2mほど浸水することになると、やはり2階以上に避難しなくてはいけないということで、避難自体が非常に困難になってきて、あそこへは行けないのではないかというのが我々住民の通説です。ただ、子供たちが登校している間にそういう事態で急激に水が増した場合、学校としましては、やはり相当早く集団下校させる等していただいて、子供たちの安全を図っていただくことになると思っています。

【野口教育長】

今ほどのお話がありましたように、災害というのはいつ起きるか全くわからない状況にあります。平日の学校にいる時なのか、それとも登下校中なのか、家にいる時なのか、土日なのかなど、いろいろな想定がありますので、学校では避難マニュアルを作っていて、それに基づいていろんな訓練等もやっています。いろいろな想定をしながら訓練を行っておりますので、学校には全幅の信頼を置きながら私はお願いをしておりますけれども、特段、今のところ金沢については問題ないと思っています。毎回見直しをかけております。

【大浦校下町会連合会】

松寺の保育園は松寺橋の下で相当高低差がございまして、まともに浸水してしまうことにもなるが、あそこは独自に考えていらっしゃって、避難の時には城東自動車学校がスクールバスを出して、子供たちを迎えに来て、城東自動車学校に避難することになっている、と言っていました。なかなかよくできていると思っておりました。

【大浦校下町会連合会】

防犯灯の件ですが、幸いうちの団地に関しては、住宅地ですから完璧に数はこなし

たと思っております。もう防犯灯を付ける余地はほとんどないと思っております。

ただし、通学路ということを見ると、住宅地の中だけ町会として考えていけばいいのかということが今疑問に思ってきました。同じ大浦校下の中で、たとえば木越団地の枠の配分のものを流用するとか、そういう弾力的な運用はできないでしょうか。

【中川危機管理監】

基本的には各町会単位で防犯灯をその世帯数に応じて設置できる本数が決められているということでございます。

一つのご提案として、その地区の中で融通できることも考えられないかということですが、今のところは考えてはいないのですが、一つのご提案として研究させていただければと思います。

(4) 共通課題についての討議

①地域住民の防災意識の向上について

「共通課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参考願います。

【大浦校下町会連合会】

小学校の引き渡しで学校へ行ってきたが、学校の校門を出るとすぐ、孫が1年生なのでカバンが重たいから「じいちゃん、持ってくれ」と言う。カバンなどはみんな学校に置いてきたほうがすごく効率的ではないかと思う。小さい子に重たいカバンを担がせて歩くより、手ぶらで帰ってきて、次の日に持たせればいいんじゃないかなと私はあの時思った。

【野口教育長】

基本的には、引き渡しの時は保護者の方がいらっしゃるという想定でありますので、児童にカバンを持たせていっておりますが、本当に緊急時には全て学校に置いて避難をさせるようにしています。引き渡し訓練は今、繰り返しになりますが、保護者がいらっしゃるという想定でありましたので、持っていかれたのだと思います。

【川北地区町会連合会】

教育長は胸を張って小学校に防災士がいらっしゃるとおっしゃいましたが、地域の防災士とのコミュニケーションはとられていますか。

それともう1点。もう六、七年ほど前になりますが、諸江町小学校に諸江地区の防災士6名と、川北地区の防災士2名、計8名で、たしか3年生か4年生だったと思うが、1時間の授業、防災についての授業、地域の問題について教えてやってください、防災の授業をしてくださいということで呼ばれて行ったことがあるが、その後、一切そのようなことがない。地域の問題をよくわかっているのは地域の防災士だと思うので、授業は良いことと思ったが、それ1回きりだったので、一体どういうことになったのかをお伺いしたい。

【野口教育長】

まず初めに、地域の防災士さんたちとのコミュニケーションの問題ではありますが、基本的に学校の防災士は、学校でいろんなことが起こった時に、学校の防災の核になることを前提にしております。ただし、地域にお住まいの防災士さんもいらっしゃいますので、これにつきましては、学校にも地域の防災士さんといろいろな連携を密にするよう話をしておりますが、きっとそれがなされていないからご質問があったと思います。それにつきましては、ぜひ地域の防災士さんからも学校にお声をかけていただきたいと思ひますし、我々ももう一度話をさせていただいて、積極的にコミュニケーションを図りながら、皆で防災意識を高めながら地域を守る、そんな体制を作るのが当然ではないかと思ひますので、それは私でさせていただこうと思ひております。

あと、学校からのお声かけということにつきましては、学校の年間活動等がありますが、また校長にも話をさせていただこうと思ひます。やはり地域のことはその地域の方が一番知っておりますので、学校から声かけがありましたら、いろいろとご指導をいただければと思ひております。

【栗崎校下町会連合会】

危機管理監にお尋ねしたいのですが、先ほど防災士のお話が話題になっておりました。課題もあれば要望もありました。その防災士がいることによって安全・安心という話もありました。そういう中で、その適正な防災士の人員について、基準というものがあるのでしょうか。たとえば栗崎でしたら、今年の4月現在で人口が7,880人、約8,000人ですよ。

7人の防災士がおられます。ということは、1人で大体、人口でいうと1,000人強見るわけですね。それで安心・安全なのか、あるいは行政ではその基準をどのように見ているのかをお尋ねしたい。

【中川危機管理監】

防災士につきましては、全国で13万人を超える方がいらっしゃるということでございます。この防災士の制度が始まったのが平成15年くらいだったと思いますが、金沢市では平成18年以降、防災士の育成をしています。

我々とすればできるだけ多くの方に、と思っておりますが、一つの目安としては、1町会にお一人ということになります。ただ、まちなかの町会であれば、同じ一つの町会でも世帯数はそんなに多くない、100世帯もあるようなところは逆に珍しいくらいでございますが、郊外へ行きますと非常に、一つの町会で何百世帯の町会もございます。そういったところについては、できるだけきめ細やかな防災活動ということの中では、その一つの大きな町会を防災士お一人で見るとするのは非常に難しいと考えておまして、今、市役所の中でも少し検討はしているのですが、たとえば一町会200世帯を超えるようなところは200世帯に防災士1名とか、少し段階的に増やしていきたいと思っております。1年で何百人が一気に防災士になるということもできない中で、少し年次計画的なものを持ちながら、地域の皆さんとも協議をしながら、基本的には1町会にお一人の方、大きな町会については複数の方と考えております。

【川北地区町会連合会】

もし浅野川の堤防に亀裂が入ったら、松寺公民館までは走るな、すぐ横に松寺市営住宅がある、そこへは3分か4分ほどで行けるからとにかくそこへ走れと。そう話をあわせている。自分で守るしかないのですよね。松寺にいたら水の下になります。そういうことで、松寺市営住宅へ上がった方がいいでしょうか。できれば屋上まで。そんなふうに決めております。

【山野金沢市長】

いいと思います。今おっしゃっていただいたように、やっぱり最後は自分で守るしかないと思いますから、最も自分たちの身を守れるやり方でやるべきだと思っております。ぜひ

そんなふうにしていただければと思います。

(5) その他質疑応答

【川北地区町会連合会】

浅野川について、平成20年に大水害がありました。あの時の結果を受けた提言書、この間少し見ていたのですけれども、その中に、今まで浅野川の防災体制の基準地点は天神橋でした。それ1点では無理だと。それで提言書の中では、一番雨の多かった上流、約15km上流にある芝原橋、そこに県が雨量計と水位観測所を設けています。その地点の水位が基準値を超えた場合、そして1時間雨量が50mmを超えたとき、それと従来の天神橋と、その3点の内、どれか一つでも達すると防災体制に入る、という話がありました。そのほか、この提言を受けてどうなっているのかなというのの一つ。

もう一つが、あちこちで話をするといつも聞かれる、そして先ほどの提言書の中でアンケート調査の結果にもありました同報防災無線が非常に聞こえにくいと。発するときは非常に天候の悪い中ですから、大雨とか風とかがすごいですからそういう無線が入るが、それが非常に聞こえにくいという話を良く聞きます。私も本当に聞こえにくいと思います。それでラジオやテレビをもう少し頻繁に利用できないか。特にお年寄りになりますと、スマホやら何やらハイカラなものは使いません。私も偉そうなこと言えないのですが。ですからテレビやラジオ、身近なもので何か伝えるような工夫がなされないかなと思います。

【中川危機管理監】

浅野川の水位等につきましては、今ほどおっしゃっていただいたところに水位計等もあり、それが河川毎に、たとえば氾濫の危険水位や警戒水位、避難準備の水位というものがそれぞれのポイントで決められていまして、その水位まで達すると、防災のいろいろな準備、段階を追ってやっていくということでございます。たとえば水防団が出動する水位であるとか、住民が避難を準備するための水位、避難の勧告を出す水位、避難の指示を出すための水位ということで決められています。それについても単に水位だけということではなくて、气象台等からの情報を得まして、今後の降雨の状況、雨雲等の状況、そんなものを総合的に勘案して対応していくこととなります。

あと、同報防災無線について聞こえにくいというお話がございます。前々から言われているということですが、どうしても最近家は気密化して大変性能が良くなって、なかなか

か聞こえにくいということがございます。我々はその同報防災無線という伝達手段のほか、ぼうさいドットコムという、携帯電話等に登録いただければ、大雨注意報が発令されましたよ、大雨警報が発令されましたよ、土砂災害の警報が発令されましたよという警報等、いろんな情報を発信する手だても持っていますし、また金沢市のホームページ「いいね金沢」にもそういった防災の情報なんかも発信させていただいています。なおかつ、同報防災無線、非常に聞き取りにくいということの中で、たとえば中山間地みたいなところであれば、なおさら山の地形の関係で電波が届かないという所もありますので、そういった所については町会長のお宅に電光表示する装置なんかも設けさせていただいています。

そんなことで、その情報は避難でありますとかいろんな活動をする上で最もベーシックで大事な部分と考えておりますので、今後も国、県、気象台等と連携しながらいち早く防災情報を発信できるように、現在、危機管理センターというものを第2本庁舎のほうに設けるということで取り組んでおりますので、それができれば今よりも一層そういった防災情報についていち早く皆様方にお伝えできるようなシステムになると思っております。

(6) 市長まとめ

【山野金沢市長】

今日は、長い時間ありがとうございました。

防災訓練等々、一番初めに栗崎でありましたけれども、たくさんの方が出席してほしいという中で、特に若い方たちというお話がありました。僕、いろんなこのまちづくりミーティングなんかでよく取り上げる例を申し上げたいと思います。

私は長坂に住んでいます。子供は長坂台小学校を卒業しました。長男が学童野球をやっています、僕はうまいことできているなと思ったのが、年度末に学童野球、少年サッカー、PTA、そして公民館の少連の役員の方が集まります。来年1年間のそれぞれの日程をお互いに確認すると、できるだけ重複しないようにしようと。大会とかは、それは長坂台だけじゃなくて金沢市全体ですから、大会とかはずらしたりするのは難しいけれども、地域の子供の行事は事前に確認し合って、できるだけお互いに参加できるようにしようということを年度末に、来年度1年間わかっている日程はやるようにしています。たとえば社会体育大会なんかは、子供は学童野球でしたから、学童野球の試合がある時は、公式試合は仕方がないのですけれども、練習試合とか普通の練習ならしないと。あくまでも社会体育大会があつての、地域があつての、学校があつての学童野球ということで、子供たち

は学童野球の野球帽をかぶって社会体育大会に参加すると。放課後児童クラブもありました。放課後児童クラブのバザーのときにはできるだけ地域の子供たちもそこに参加しようということをされていました。あのころは10年以上前ですから、まだこんな防災訓練がそんなに議論がされていませんでしたが、これからは、さっき言われた防災訓練なんかも事前に計画的に日を決めて、そんな形で学童野球や少年サッカーやミニバスや、そんな子供たちにも伝わるように、そして親御さんも参加できるような体制をとっていくということが必要なのかな、そんな時代になったのかなという思いで今いるところであります。

それぞれ地域のいろんな事情があるかと思えますけれども、可能な限り行政と連携を密にとりながら、先ほど教育長や危機管理監、具体的な他の地域の例も挙げましたけれども、他の地域の例で参考にさせていただけるものがあるようでしたら参考にさせていただきながら、その地域によりふさわしい形で、地域の安全・安心のためにいろんな活動を一緒にしていければと思っています。

今日はご多用のところ、長いお時間本当にありがとうございました。